

「泌尿器科病棟における排尿自立指導の実態調査」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2023年4月1日から2024年3月31日までに埼玉医科大学総合医療センター7階西病棟で前立腺癌全摘除術を施行され、排尿ケアの介入を必要とした92名の方を対象としております。

2. 研究の目的

2016年の診療報酬改定により新設された排尿自立指導料は、下部尿路機能障害を有する患者に対して、病棟でのケアや多職種チームによる下部尿路機能回復のための包括的排尿ケアを評価するものです。2020年の診療報酬改定により排尿自立指導料が見直され、入院と外来に区分した評価体系が導入され、入院中から退院後まで継続した包括的排尿ケアに対する指導料の算定が開始されました。

当院では2021年4月より、排尿障害を抱える患者に対し早期から排尿自立に向けた介入を行うために、医師・リハビリスタッフ・専任看護師で構成され「排尿ケアチーム」が発足されました。病棟看護師に求められる役割として 対象患者の抽出 下部尿路機能評価のための情報収集 下部尿路機能障害の評価と計画策定 包括的活的排尿ケアの実施と評価があげられます。また、排尿ケアチームによる関与と、病棟看護師による患者への直接的な指導と援助の内、いずれかが片方のみしか行われなない場合は算定できないとされています。

現在私は、排尿ケアチームメンバーとして活動しており、週3回行われるラウンドに参加しています。そこでは、排尿自立指導のために必要とされる介入やそれに関する記録が正しく記載できるように支援しています。排尿ケアチームの介入が多い病棟は泌尿器科で、主に前立腺がん全摘除術後の排尿障害の患者へ介入しています。前立腺癌の手術療法においては、5年生存率は100%に近づいてきています。しかし合併症として、尿失禁、排尿困難、頻尿などを含む排尿障害が起こることが認められており、術後の患者のQOLに大きな影響を与えています。患者への包括的排尿ケアの実践としては、術後患者の排尿障害に対し、リハビリスタッフによる骨盤底筋体操の指導が行われています。看護師は、その体操が患者の日常生活に取り入れられるよう、個々の生活に沿った指導・援助を行うことが重要です。また、排尿日誌の記入による評価、尿もれ量に合った適切なパットの選択方法等退院後の生活を見越した指導が必要となります。病棟スタッフに対し、排尿ケアチームメンバーとして、勉強会や病棟独自のマニュアル作成、個人への指導により全スタッフがチームと共にケアの方向性を理解し、実践できるよう取り組んでいます。しかし、新人看護師やスタッフの病棟間異動がある状況では、教育不足やスタッフ全員が正しく理解し、患者へ指導ができていないと断言し、患者への適切な指導ができていない場面が見受けられます。また、現状では骨盤底筋体操の具体的な指導は、リハビリスタッフが中心に行っており、看護師の患者指導に対する認識不足、希薄化が考えられます。排尿自立支援算定に必要な記録や計画書の立ち上げ、入力漏れもあり、必要な介入や指導がされていない可能性もあります。それによって、患者の排尿自立の遅延やQOLへの影響も考えられます。

そこで当病棟の包括的排尿ケアについての現状を把握することが必要であると考えました。要因が明らかになることで、患者が適切な看護援助を受け有効な排尿自立支援につながりQOLの向上が期待されます。また、適切な排尿自立支援加算の算定へもつながると考えられます。本

研究では、当病棟における、前立腺癌全摘術後の患者に対する排尿自立支援対象患者の抽出状況や、記録・評価での不備の傾向を抽出し、看護師の経験年数や泌尿器科病棟での経験年数による認識の相違や、理解が不足している内容の把握を目的とします。

3. 研究期間

病院長の許可後～2025年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年10月1日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

利用する情報は、診療記録になります。具体的には、以下の項目になります。

年齢、性別、現病歴、既往歴、合併症、自尿、尿もれの量、骨盤底筋体操の理解度、排尿自立支援に関する診療計画、看護師の介入記録、リハビリの全体評価

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である千代間博美が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

前立腺癌全摘術後の患者さんの診療記録等（電子カルテ）を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究機関の名称：埼玉医科大学総合医療センター

研究責任者：7階西病棟 看護師 千代間博美

研究実施者：7階西病棟 看護師 原田知未

7階西病棟 看護師 星百恵

7階西病棟 主任看護師 澁谷悦子

7階西病棟 副看護師長 久保島明枝

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 7階西病棟 千代間博美

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981番地

電話：049-228-3584（土日祝日を除く9時～17時）

研究課題名：泌尿器科病棟における排尿自立指導の実態調査

研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 7階西病棟 千代間博美